

タイトル：2025 年度 教育セミナー（第 21 回）

日時：2025 年 9 月 18 日（木）～21 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

「ロシア帝国の南西コーカサス併合と統治の確立：軍事人民統治を中心に」

椎名 旺快（北海道大学文学院）

このたび参加したセミナーでは、今年度に提出予定の修士論文や、それ以降の研究活動において大きな弾みとなる経験を得ることができました。まずはこの場をお借りして、今回のセミナーに関係したすべての方々に心よりお礼を申し上げたいと思います。近藤先生をはじめとする AA 研の所員の皆さま、鷺見先生をはじめとして講師を担当していただいた先生方、参加したほかの学生の方々、そして 4 日間の長丁場にわたり当日の運営に尽力してくださった野田先生と千葉さま、本当にありがとうございました。

学部生のころから教育セミナーの存在は認知しており、当時から参加の希望を持っていましたが、せっかく参加するのであれば発表を行いたいとの考えで昨年度の参加は見送っていました。今回は修士論文の進捗報告という形で発表を申し込み、日本中の大学から集まった様々な分野や地域を研究する大学院生の方々、そして中東・イスラーム研究にかかわる学生や研究者であれば誰もが名前を知るような先生方に自分の研究を聴いていただくという、きわめて貴重な機会を賜りました（ちなみに、発表の有無にかんして参加を迷っている方に向けた個人的な意見としては、下にも記すように、同世代の大学院生たちと交流し、彼らの研究報告を聴き議論に参加するだけでも十分に良い体験ができると感じたので、発表のネタがないからと言って参加をためらう必要はないと思いました）。

発表では、過去の多くの参加者が述べていることと重なりますが、自分とは経歴も関心も異なる人々に向けて、自らの研究の内容・魅力・意義をわかりやすくかつ適切に伝えるこ

との難しさを痛感しました。また筆者は学部以来、主にロシア・旧ソ連の地域研究を掲げる所属に在籍し、中東史やイスラームにも関心を抱きつつ、研究の軸足はロシア史に置いてきました。ゆくゆくはロシア帝国史とオスマン帝国史の両足で立つような研究者になりたいとの目標を持っていますが、今回オスマン史に携わる方々から多くの指摘を受け、自身の現状の弱点をはっきりと自覚しました。これらのフィードバックは、まさしく中東☆イスラーム教育セミナーという場で研究発表を行うことでしか得られなかったものだと実感しております。

最も勉強になったのは、ほかの参加者の報告における質疑応答でした。おのおの分野・テーマが異なる中で、目の前の発表者に対して質疑を通して理解を図り議論を活発化させることは、自身の訓練としても非常に有意義でしたし、ほかの学生たちの発言からも学ぶものが多くありました。またここでの先生方からの（ときに鋭い）コメントは、論点の深め方や構成についてなど自分の研究に応用しうる内容も多く、こちらからも重要な学びを得ることができました。

上にも記した通り、筆者は普段はロシア・旧ソ連地域研究に関連する場にいることが多いため、今後中東・イスラーム研究にも足場を築いていくうえでも、今回得られた同年代の大学院生たちとのネットワークはとても貴重な宝物です。これからも研究を続けていく中で、彼らとは切磋琢磨する関係性でいられればと願っております。

今回のセミナーでの収穫は、現在執筆中の修論にも反映させられる一方、それ以降の博士課程での研究にも有益なものだと感じています。得られた刺激を無駄にしないために、当面は良い修論を書き上げることを目標としつつ、その後も研究に一層邁進していきます。